

## 共同運営部門：内視鏡検査センター

### —スタッフ—

役職	スタッフ名
センター長兼消化器内科部長	高谷 宏樹
消化器内科主任部長	大西 亨
消化器内科副医長	中野 智景
消化器内科医員	入 彩加
非常勤医師	月曜 午前1名, 午後1名

### —概要—

2020年度はCOVID-19に翻弄された年であった。非常勤医師は本来の勤務されている勤務先に影響が出る可能性があるため1名を残し大幅に減員とした。

内視鏡室看護師を専任とし、休日夜間も対応可能とした。常勤医師と専任看護師にしたことで休日夜間の緊急内視鏡に対応しやすくなった。通常の内視鏡検査・処置件数は4月5月で減少したが1年を通してみるとわずかな減少にとどまった。

内視鏡学会指導医・専門医1名、専門医2名が当院に常勤として在籍しており日本消化器内視鏡学会認定指導施設となっている。

当院で研鑽を積むことで日本消化器内視鏡学会認定専門医の取得が可能である。

### —実績—

#### 内視鏡件数

上部内視鏡検査	2,800件
止血術	35件
ステント留置	10件
上部EUS	50件
ESD	35件
ERCP関連処置	170件
胆膵EUS	321件
下部内視鏡検査	1,720件
コールドポリペクトミー	320件
止血術	15件
粘膜切除術	353件
大腸ESD	19件
ステント留置	9件

### —今年度の成果と反省点・来年度への抱負—

若手、中堅の医師の内視鏡技術も向上し安心して検査を任せられるようになってきた。さらに非常勤医師が減少したが十分に検査を行うことができるようになった。内視鏡スコープはほぼ最新のスコープを整備している。上部消化管では経鼻挿入も可能でかつ高画質のスコープも4本あり、検診や人間ドックの被験者からの評価も向上し、患者の苦痛も軽減されている。かつ通常スコープでの精査では適切な意識下鎮静を行い患者の苦痛の軽減に努め、好評である。また下部消化管では全機種ウォータージェット付きの機種を導入し、腸管内の洗浄が行いやすくなり診断精度も高まりポリープの発見、処置も行いやすくなっている。また、ERCPのスコープも更新したことで高難易度なERCP関連処置も行えるようになり、数が増えたことにより短時間で複数の検査を行いやすくなった。さらに超音波内視鏡スコープの使用件数が着実に増加し胆膵悪性疾患の早期発見が増え、さらに進行癌でも診断レベルが向上している。

しかし、内視鏡検査室の不足のため検査数が制限されてしまっている。ファイリングシステムの老朽化のためせっかく撮影した高精細な画像を保存できないことが残念である。これらに対しては現在拡張工事進行中であり、ファイリングシステムの更新とともに、今後期待できる。

2017年度から内視鏡センターを整えてきた。検査数、処置数、診断レベルも向上してきた。今後もさらなる向上を目指しつつ、地域の消化器内科、消化器内視鏡医療に貢献していきたい。